

予選では1秒の間に15~20台が入るといふ各国のプロのポルシェ遣いが集う世界最高峰のワンメーカーレースで究極のイコールドリフトコンディションレースを戦うという痺れる内容の中、限られた練習走行でもチームメートのレギュラードライバーより速く走れた事は自分のドライバーとしての自信にも繋がりました。

日本のレースドライバーと言われる中できっと私は、その経歴や現在の活動を見て頂くと"異色"だと思いますがレース活動はアジアを中心にした海外レースとなっていくのは私の中ではごくごく自然な流れと言えます。

そして澤圭太 = アジアレース を決定づけたのはやはりマカオGPでしょう。2006年のアジアレース初挑戦のPCCA最終戦の舞台がこのマカオGP、自身にとっても初の市街地コース、今でもあの緊張感は忘れないですし、それから数えて6年マカオGPには連続出場してましたが2006年初挑戦で2位、2007年3位、2008年からはASIA GT3シリーズの最終戦ノンタイトルラウンドのゲストドライバーとしてランボルギーニGT3マシンを駆って3位、そして忘れもしない2009年のチームLKM同志の1-2フィニッシュでマカオ初優勝。2010年は2勝目をランボルギーニLP6000で。昨年は3連覇を目指しましたが背水の陣で臨んできたAUDI勢の後塵を押し2位でした。

この6年、あのマカオでノークラッシュ、全レース表彰台獲得は自分の勲章であり、速く安全に壊さずに走るという自分の過去のレース環境の中から培われてきたモットーを具現化したものであり、自分のクルマ・レースを通じて皆さんにも伝えていきたいテーマだとも確信しています。

2010年はPCCAもコーチングをしながらLKM号にスポット参戦し、昨年2011年は2007年以来となるPCCAフル参戦、速さでは正直負けてましたが上手さでかわして僅か1ポイント差でPCCA日本人初のシリーズチャンピオンを獲得出来ました。今年はチャンピオン防衛が絶対条件です。

既に開幕前の公式テスト、そして開幕戦(F1サポート中国GP)を終えて、シリーズ2位で次のラウンド中国ZHUHA I戦を迎えます。PCCAは全部で6ラウンド(12レース; 1WEEK・2RACE) Aクラス(プロドライバークラス)とBクラス(ジェントルマンクラス)に分けられていて、走行は両クラス同時、今年は過去最高の25台以上の両クラスのマシンが戦っています。

マシンは世界で行われているカレラカップと同様、私は2012年モデルのPORSCHE GT3 CUPをドライブ、引き続きLKM Racing Teamからエントリーしています。

今年は特にAクラスが熱い!今すぐにもGT300に乗れるようなプロドライバーや、ヨーロッパからJOINTしていて、PORSCHE FACTORYドライバーも中国のいくつかのディーラーチームから雇われてエントリー。

私の予想では上位6~7人は>>1秒以内の争いになっています!

クルマのセットアップ範囲も限られていてプロドライバー同志のワンメーカーレースでのスプリントレースはとも見ごたえあるはず。

今年は1レース目の決勝結果、上位8台がリバースグリッドになるという驚異のレギュレーション変更が発表され、開幕戦の上海戦では5位スタートで一時トップに躍り出るものの、一瞬で追突されて結局2位...という展開。

とにかく速さ、上手さ、セットアップ能力、しぶとさ、戦略力、など全ての要素を求められるハードなシリーズがPCCAです。今後中国ZHUHA I、中国ORDOS、マレーシアSEPANG、シンガポールMARINA BAY (F1イベント併催)、中国SHANGHA Iと続きます。

日本ではなかなか情報が少ない海外のレースが実はとっても凄いです!という部分をドライヴィジョンを通じてお伝えしていきますので是非私の"全力全開激走コラム" 応援よろしくをお願いしますね!



## PORSCHE CARRERA CUP ASIA

20年もレースをやっていると"絶対絶命のピンチ"というのがありました。カートレースで接触横転2回転半して全身打撲で次の日鈴鹿のF3テストに行った時、カートレースに向かう中央道で早朝単独事故車両に同乗してハイエースの2列目から助手席まで飛んで行った時、GTデビュー戦でGT500と接触してその反動でコンクリートウォールに激突マシンを全損させた時、全身打撲で救急車で病院に運ばれる車内で、もうレース出来ないな~と思ってました...それ以外にも全部書いたらそれで1個コラムが書けるほど(笑)

15才で初めてレーシングカートに乗るようになってからもうそんなに経つと思うと不思議なものです。私のような何もバックボーンが無い若輩者がこうして今もレースやクルマの世界にしがみついても居れるのは日本のモータースポーツ界に起きた1つの奇跡と言っても過言ではないと思います。

詳しくはプロフィールをご査収いただくとして...今回はドライヴィジョン担当コラム初回(導入編)として私が2006年から挑戦してるアジアでのレース活動(特にPCCAについて)紹介したいと思います。

2002年からGT300を走るようになり、クラス優勝も4回経験し、シリーズ2位もありました。国内でも思い出深いレースばかり、でもこのまま国内でそこそこの地位のままでは満足できなかったのです。雑誌やドライビングインストラクターの仕事もこの頃から本格的になり、これはこれでとてもやりがいがあると感じてました。ですからアジアでのレース活動を開始した2006年は私のレースキャリアの中でも大きなターニングポイントでした。

それがPORSCHE CARRERA CUP ASIA (以下:PCCA) シリーズです。2006年は年間3位、翌2007年は年間2位(1勝含む)でした。フルシーズンの参戦はこの2年で一旦終了したものの、私は自分がドライブしないPCCAの現場に居続けようと思いました。

2007年に現在に至る私のスポンサーとなる香港の鉄鋼会社、LKM社のオーナーと一緒に耐久レースに出場する機会があり、それがきっかけで2008年はスポット参戦ながらヨーロッパで行われるポルシェワンメーカーレースシリーズの最高峰、PORSCHE MOBIL1 SUPER CUPのフランス、ドイツ戦に出場の機会を得ました。

